

ワクチン情報文書

A型肝炎ワクチン

知っておきたいこと

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See www.immunize.org/vis for details. 多くのワクチン情報文書がスペイン語その他の言語で準備されています。
www.immunize.org/visをご覧ください。

1 なぜワクチン接種が必要ですか？

A型肝炎は深刻な肝臓の病気です。A型肝炎ウイルス（HAV）が原因です。HAVは感染者の排泄物（糞便）を介して人から人へうつります。手洗いをしっかりと行わない場合、容易に伝染します。HAVに汚染された食品・水・ウイルスが付着した物からA型肝炎に感染することもあります。

A型肝炎の症状は以下があげられます：

- 発熱・倦怠感・食欲不振・吐き気・おう吐・関節の痛み
- 激しい腹痛・下痢（子供によく見られます）
- 黄疸（皮膚や目の白い部分が黄色くなること、濃い色の尿が出る、褐色の便が出る）。

これらの症状は、感染後2-6週間で現れ、通常2カ月以内で治まりますが、中には6カ月の間症状が続く場合もあります。A型肝炎に感染すると、症状が重く就業できない場合があります。

子供は無症状の場合が多く、ほとんどの成人感染者には症状が現れます。症状がない場合でも、HAVが伝播する場合があります。

A型肝炎の感染により肝不全や死に至る場合もありますが、このようなケースはまれで、感染者が50歳以上であったり、B型肝炎・C型肝炎など他の肝臓病にかかっている場合によく見られます。

A型肝炎ワクチン接種によってA型肝炎の感染が予防できます。米国では、1996年よりA型肝炎ワクチン接種が推奨されています。実施後、毎年の米国における感染の報告数は約31,000件から1,500件以下へ減少しました。

2 A型肝炎ワクチン

A型肝炎ワクチンは不活化（死菌）ワクチンです。長期にわたって免疫を得るためには、2回の接種が必要です。初回接種後、少なくとも6カ月を開けて2回目の接種を行います。

標準的には、幼児は1歳と2歳の誕生日の間（生後12カ月から23カ月）に接種が行われます。年長の子供および青年は、生後23カ月以降でも接種が可能です。今までにA型肝炎ワクチン接種を受けたことがなく、A型肝炎の予防を希望する成人も、接種が可能です。

以下の場合、A型肝炎ワクチン接種が必要となります：

- A型肝炎の流行地域を旅行する場合、
- 男性同士で性交を行う場合、
- 麻薬を使う場合、
- B型肝炎やC型肝炎など慢性の肝臓病にかかっている場合、
- 濃縮凝固因子剤の治療を受けている場合、
- A型肝炎に感染した動物と接触のある仕事についている、またはA型肝炎研究施設で働く場合、
- 海外のA型肝炎流行地域から養子をむかえ、個人的で密接な身体接触が予想される場合

これら接種対象者についてさらに詳しい情報が必要な場合、医師にご相談ください。

他のワクチンと同時にA型肝炎ワクチンを接種する場合のリスクは報告されていません。

3 ワクチン接種を避けなければならない場合

以下のような場合、予防接種担当者にお知らせください：

- 何かに生死に関わる強いアレルギーがある場合。A型肝炎ワクチン接種後に生死に関わるアレルギー反応が見られた場合、またワクチンの成分に強いアレルギーがある場合、ワクチン接種を控えるよう指示される場合があります。ワクチンの成分についてさらに詳しい情報が必要な場合、医師にご相談ください。
- 気分が優れないとき。風邪などの軽い病気にかかっている場合、本日のワクチン接種はおそらく可能です。中程度から重い病気にかかっている場合は、おそらく回復するまで待たねばなりません。医師の診断を受けてください。

4 ワクチンの副反応のリスク

薬の副作用と同様に、予防接種にも副反応が見られる場合があります。これらの症状は通常軽く、自然に治まりますが、深刻な反応が見られる場合もあります。

A型肝炎ワクチンを接種しても、ほとんどの場合に問題はありませぬ。

A型肝炎ワクチン接種後に発生する軽度の問題には以下が含まれます：

- 接種部分の痛み・赤み・腫れ
- 微熱
- 頭痛
- 疲労感

これらの症状は、通常接種直後に現れ、1-2日間続きます。

これらの症状について詳しい説明は、医師にご相談ください。

接種後のその他の問題としては、次があげられます：

- 予防接種などの医療処置を受けた場合、気を失う場合があります。15分程度座る、または横になることで失神を避け、転倒してけがをすることが防げます。目がくらんだり、視野に変化があったり、耳鳴りがする場合は医師に知らせてください。
- 接種後に通常想定される痛みよりも強く長く続く肩の痛みを感じる場合があります。これらが見られる場合は非常に稀です。
- どのような薬も強いアレルギー反応を引き起こす可能性があります。ワクチン接種によるこのような反応は非常に稀で、100万回に1回程度で、接種後数分-数時間で発生するものとされています。

他の薬と同様、ワクチン接種が深刻なけがや死亡の原因となる可能性は非常に低くなっています。

ワクチンの安全性確認は常に行われています。詳細はwww.cdc.gov/vaccinesafety/をご覧ください。

5 重度の問題があった場合には？

どのようなことに注意せねばなりませんか？

- 強いアレルギー反応・高熱・行動の変化などがなければ注意して観察してください。

強いアレルギー反応として、蕁麻疹・顔と喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・虚弱などがあげられます。これらの症状は、接種後数分から数

時間後に現れます。

何をすべきですか？

- 強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合には、救急車(9-1-1)を呼ぶか最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、かかりつけの診療所に連絡をしてください。

その後、アレルギー反応をワクチン有害事象例報告データベース (VAERS) へ報告する必要があります。担当医師に報告義務がありますが、VAERSのウェブサイトwww.vaers.hhs.govで、または電話1-800-822-7967での自己報告も可能です。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

6 全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム (VICP) は、特定のワクチンで被害を受けた人々を救済するために設けられた連邦政府のプログラムです。

ワクチン接種による被害の疑いがある場合、電話1-800-338-2382またはVICPのウェブサイトwww.hrsa.gov/vaccinecompensationでプログラム内容を確認し、補償請求を提出することができます。補償請求には提出期限があります。

7 より詳しい情報は？

- 医師にお尋ねください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- 疾病対策センター (CDC) にご連絡ください：
 - 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) まで電話か、
 - CDCのウェブサイトwww.cdc.gov/vaccinesをご覧ください

Vaccine Information Statement - Japanese
Hepatitis A Vaccine

7/20/2016

42 U.S.C. § 300aa-26

Translation provided by the Oregon Health Authority

Office Use
Only

